

# 成果報告書

2018年度 慶應義塾大学湘南藤沢学会「研究助成金」

政策・メディア研究科 後期博士課程1年 櫻井幸男

1. 活動名称：国際会議発表（5th International Conference on Eurasian Politics and Society (IPEAS2018)）および現地聞き取り調査
  
2. 日程：
  - (1) 国際会議：2018年4月23日（月）、会場：Bahariye Mevlevihanesi c/o Eyüp Merkez Mahallesi, Bahariye Cd., 34050 Eyüp/İstanbul
  - (2) 現地聞き取り調査：2018年4月24～26日（火～木）
  
3. 活動の目的：
  - (1) 研究テーマ「トルコ現代政治」に関する学術研究者の集まる国際会議（IEPAS）に参加し、研究者の研究発表及び現在の関心事項を聴取すること
  - (2) 現地に長く居住する日本人およびトルコ人を対象に、現代トルコ政治に関する聞き取り調査を行うこと
  
4. 活動の成果：
  - (1) 国際会議は、2名の基調講演者（イスラエルの大学教授と在トルコ・カザフスタン大使）の欠席により、渡航直前に急遽1日開催に短縮された。参加者は、主催者事務局と報告者合計50名で、トルコおよびユーラシアの政治・社会を研究するトルコおよび外国（クロアチア、アゼルバイジャン、ウズベキスタン、ロシアなど）の大学教授・准教授・講師、研究所員、博士課程院生であった。共通論題「都市による外交」に関する報告は限られ、トルコおよびユーラシアの政治・社会の課題に関する報告が大勢を占めた。筆者は、共通論題に沿って「Cooperation among International Cities to Advance Global Concerns for the Ageing: The Benefits of Collaboration among Tokyo, Singapore, and Istanbul」と「One Thought on Role of Cities and Citizens for “Treaty on the Prohibition of Nuclear Weapons”」の2題目を2つのPanelで各15分間報告した。前者では、世界的な高齢化に伴い急増する認知症高齢者問題を取り上げ、成年後見法制と運用の知識・経験を、先進国→新興国→開発途上国へと移転する国際協力が必要であること、具体的には、超高齢化都市：東京→将来の高齢化都市：イスタンブール→知識・経験に乏しい中東都市への2段階の都市間協力が重要であることを報告した。後者では、2017年7月国連で採択された「核兵器禁止条約」を取り上げ、背景にあった広島・長崎両市および市民社会の国際的平和運動、非同盟諸国の核兵器違法化の外交努力の存在を指摘し、人類の平和確保のため核兵器禁

止条約と NPT 条約が互いにつぶし合うのではなく、条約の併存を認め、双方が可能な限り努力し、核兵器の脅威を縮減することが重要であると報告した。会議後の懇談会にて、複数の研究者が、現在のトルコは非常事態宣言下のため学術の自由が制限されているので、発表テーマの決定に気を使ったと述べていた。



Panel 発表（筆者は右端）

(2) 現地に 5～20 年在住する日本人 4 名およびトルコ人 4 名に対して、①トルコ政治は民主政治か否か、②トルコが国際人権を尊重しない理由、③トルコは将来国家破綻するか、の 3 つの問いを示し意見聴取した。聴取した各人が、職業や生活環境に応じて異なる指標（物価、為替、不動産価格、観光客の国籍、公共事業、モスク建設、学校教育など）を用いて回答してくれた。これにより、文献では得られない現地の生の声を聴取することができた。全員が、このような微妙な話は普段はしないようにしており、研究に利用するには匿名にしてもらいたいと述べたことが印象的であった。富裕層は、子弟教育を国外で行い、不動産以外の個人資産を国外に移転させ、有事の際、国外移住する準備ができている。中流層もこの動きになっている。知人の大学教授が既に 10 名国外移住したと述べた人も居た。想像した以上に現在のトルコ国内は緊張状態にあることが理解できた。来る 6 月 24 日の前倒し総選挙・大統領選は、今後のトルコの行くえを見るうえでこれまでにない重要な選挙になると全員が明言した。なお、総領事との面談は、先方の都合により残念ながら渡航直前にキャンセルとなった。

#### 5. 今後の展望：

国際会議に提出した full paper（高齢化の都市間協力）が主催者学術誌の査読対象となっており、6 週間後に審査結果が発表される。査読に合格すれば論文が主催者学術誌に掲載される。聞き取り聴取の内容を整理し、今後の現代トルコ政治の研究に活用する。今後とも可能な限り現地での意見聴取は継続していきたい。

#### 6. 謝辞：慶應義塾大学湘南藤沢学会の研究助成に対して感謝申し上げます。

以上